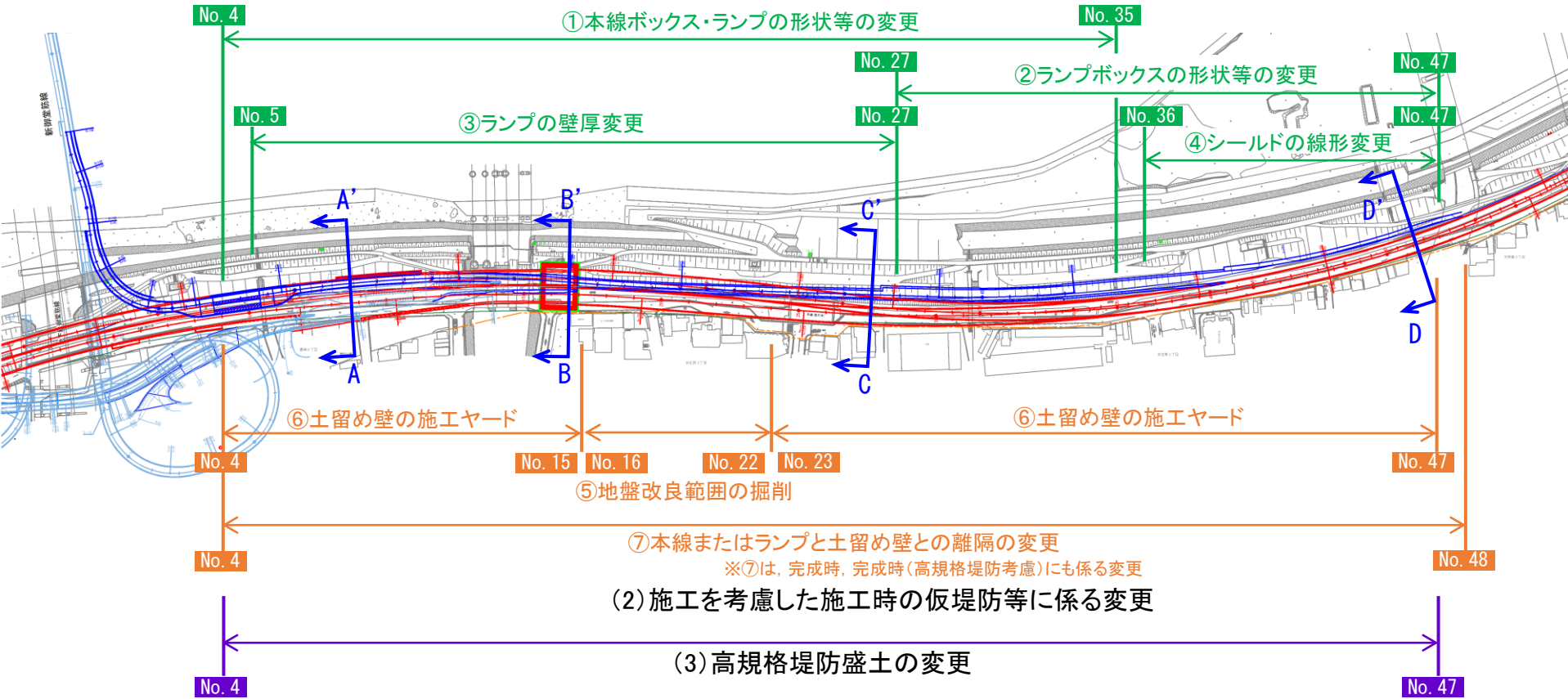


検討断面の形状等の変更について

令和 4年 3月 18日

【1】 第3回委員会後の検討断面の形状等の変更

(1) 概略設計の進捗による道路構造物の形状等の変更



代表的な断面 本線ボックス	立坑	本線シールド+ランプ掘削	シールド切上げ
<p>東-No. 7+00 (9.0K+02m付近)</p> <p>SMW連続壁 残置</p> <p>鋼管矢板壁</p> <p>緊急用河川敷道</p> <p>現況堤防断面</p> <p>施工断面</p> <p>計画堤防断面</p> <p>A-A'</p>	<p>東-No. 15+00 (9.0K+025m付近)</p> <p>鋼管矢板壁</p> <p>緊急用河川敷道</p> <p>現況堤防断面</p> <p>施工断面</p> <p>計画堤防断面</p> <p>B-B'</p>	<p>東-No. 26+00 (9.0K+035m付近)</p> <p>鋼管矢板壁</p> <p>現況堤防断面</p> <p>施工断面</p> <p>計画堤防断面</p> <p>C-C'</p>	<p>東-No. 45+00 (9.2K+103m付近)</p> <p>鋼管矢板壁</p> <p>現況堤防断面</p> <p>施工断面</p> <p>計画堤防断面</p> <p>D-D'</p>

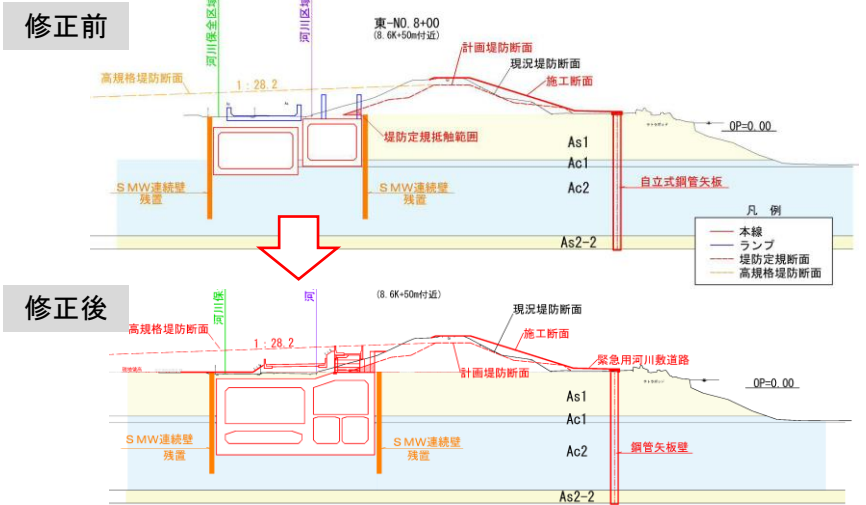
(1) 概略設計の進捗による道路構造物の形状等の変更

No.4

No.35

① 本線ボックス・ランプの形状等の変更

- 概略設計の進捗による道路構造物の形状や部材厚の変更。
- 本線ボックスが形状変更となり、幅が最大3m程度広がるなど、完成時や仮堤防の前出しが生じる施工時も含め、全解析に影響する。

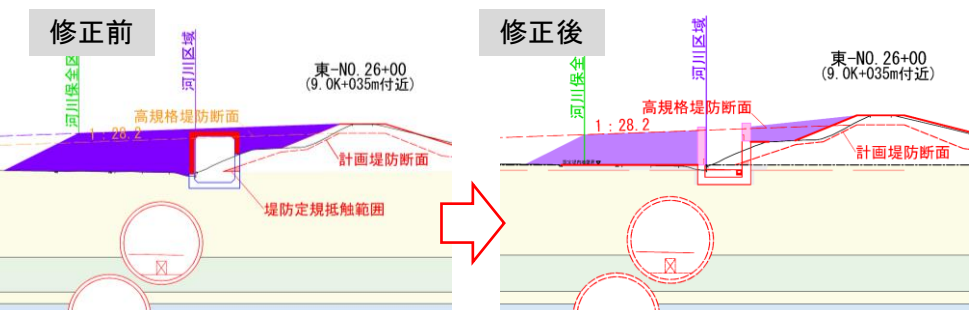


No.5

No.27

③ ランプの壁厚変更

- 高規格堤防の盛土を考慮したランプの壁厚の変更。
※ ~No.27は、現時点ではボックス化しない計画となっている。
- 堤防側で最大1.2m程度厚くなり、完成時や仮堤防の前出しが生じる施工時も含め、全解析に影響する。

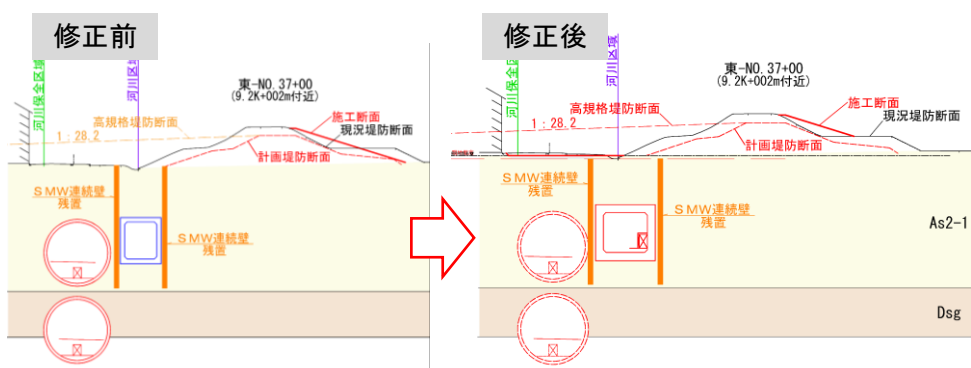


No.27

No.47

② ランプボックスの形状等の変更

- ランプのボックス部では内部空間での避難路を確保し、2.6m程度広くなる。
- 完成時や仮堤防の前出しが生じる施工時も含め、全解析に影響する。

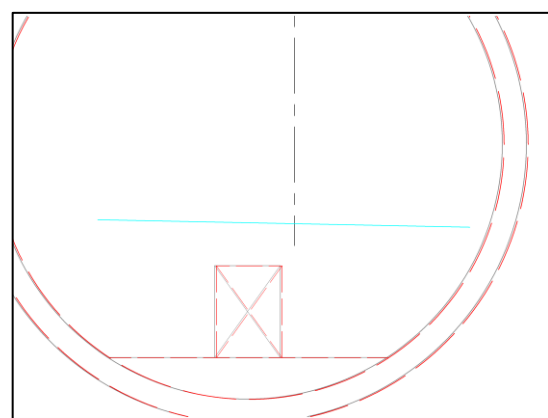


No.36

No.47

④ シールドの線形変更

- シールドの平面線形の変更(数cmで図上ではほとんど差がない)。
- 解析結果にはほとんど影響を与えない。



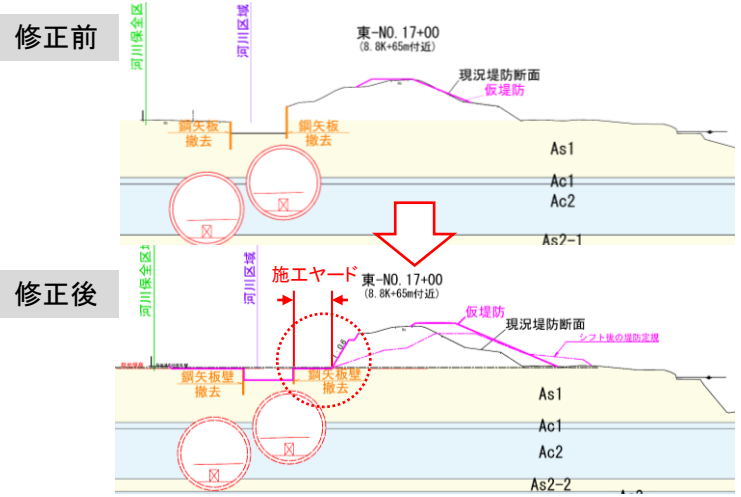
グレー: 修正前
赤: 修正後

(2) 施工を考慮した施工時の仮堤防等に係る変更

⑤ 地盤改良範囲の掘削

No.16 No.22

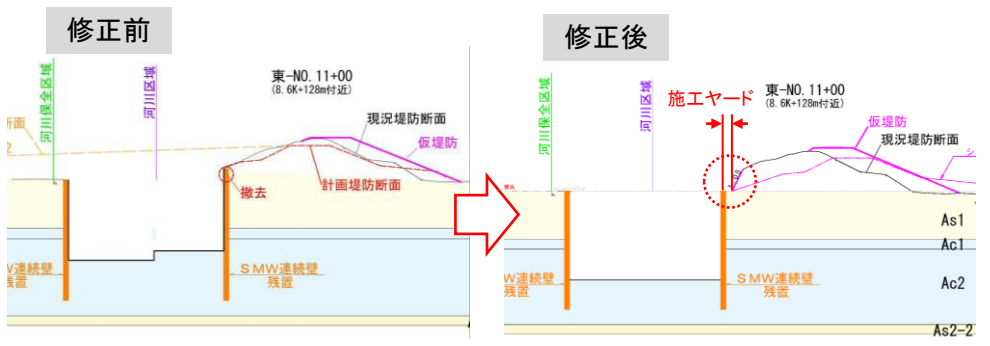
- 地盤改良の施工ヤード確保のため堤防を掘削。
- 仮堤防がNo.17で約7m前出しされ、施工時の全解析に影響する。



⑥ 土留め壁の施工ヤード

No.4 No.15 No.23 No.47

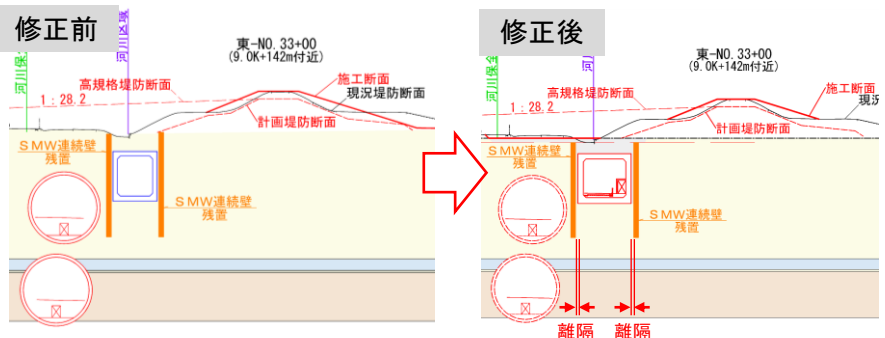
- 土留め壁打設に必要な施工ヤードとして1.6mの余裕を確保。
- 仮堤防が前出しされ、施工時の全解析に影響する。



⑦ 本線またはランプと土留め壁との離隔の変更

No.4 No.48

- 施工時の余裕を考慮し、土留め壁と道路構造物の離隔を0.5~0.8mに再設定した。
- 完成時や仮堤防の前出しが生じる施工時も含め、全解析に影響する。

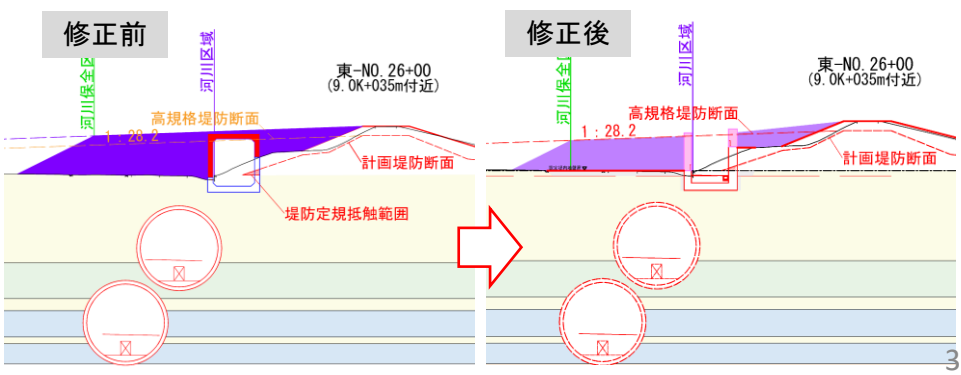


(3) 高規格堤防盛土の変更

No.4 No.47

高規格堤防盛土の変更

- 高規格堤防の形状を現況堤防天端から1:28.2の勾配で設定していたが、淀川左岸線延伸部では事業化されておらず、淀川左岸線(2期)との整合性を再確認し、ランプの堤内側で計画の高規格堤防断面に摺り付けた。
- 浸透や耐震、地盤変形(圧密)のほか、侵食での越流の検討に影響する。



【2】 断面選定への影響について

断面断面の形状等の変更に伴い、第2回委員会において選定した検討断面が妥当であるか、その影響について確認した。

断面選定に先立ち、まずStep1として、構造形式や地盤条件によって、17カテゴリーに分類した。今回の変更は、構造形式や地盤条件には影響しない変更であることから、この分類に変更はない。

【浸透の例】

測点No.	4		10			15		20			25			30			35			40			45			49					
道路構造	本線	開削ボックス					立坑	シールドトンネル																							
	ランプ	擁壁・掘割										開削ボックス			本線シールド切詰め																
土留め壁	構造	SMW連続壁				鋼矢板 (完成時撤去)					SMW連続壁				鋼製地中連続壁																
	長さ	20m		58m		9.5m			15m		20m		25m		30m		30m		35m		45m										
地盤	粘性土層が厚く分布							遷移区間 (粘性土層・砂質土層)			砂質土層が厚く分布 (深部に薄い粘性土が存在)			砂質土層が厚く分布																	
川表の状況 (自立式鋼管矢板)	水衝部(自立式鋼管矢板あり)							高水敷(自立式鋼管矢板なし)																							
区分		①		②		③		④		⑤		⑥	⑦	⑧		⑨		⑩		⑪		⑫	⑬		⑭		⑮		⑯		⑰

※第2回委員会 資料-4 p.11より

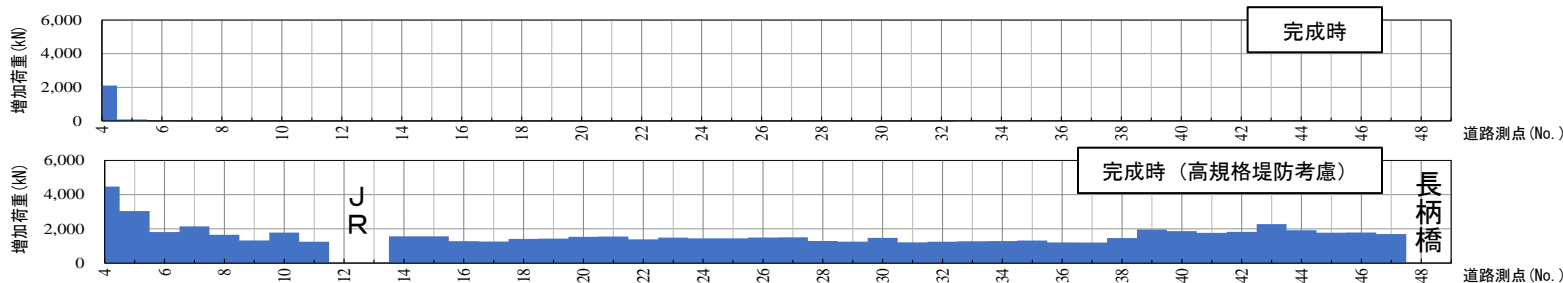
【構造形式】

- ・道路構造・本線：開削ボックス，立坑，シールドトンネルの種別と，その位置に変更がない。
- ・道路構造・ランプ：擁壁・掘割，開削ボックス，本線シールド切詰め種別と，その位置に変更がない。
- ・土留め壁：SMW連続壁，鋼矢板，鋼製地中連続壁の種別と，その位置に変更はない。
また，その長さにおいて堤内地側の土留め壁で，一部構造物との位置関係で短くなるが，最も長い土留め壁の長さに変更がない。
- ・地盤：地盤条件は変更がない。
- ・川表の状況：川表の状況は変更がない。

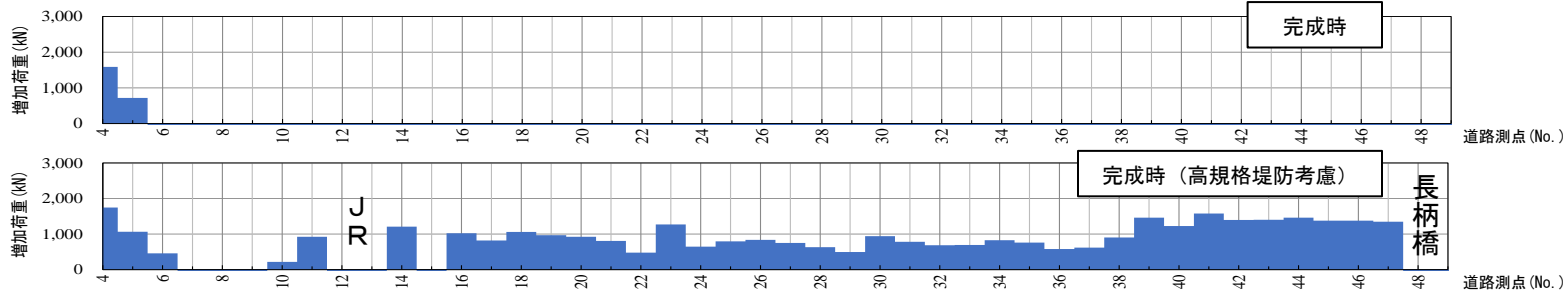
【増加荷重について】

耐震および地盤変形（圧密）の選定に係る完成時および完成時（高規格堤防考慮）の増加荷重は、断面の見直しによって以下のように変化した。

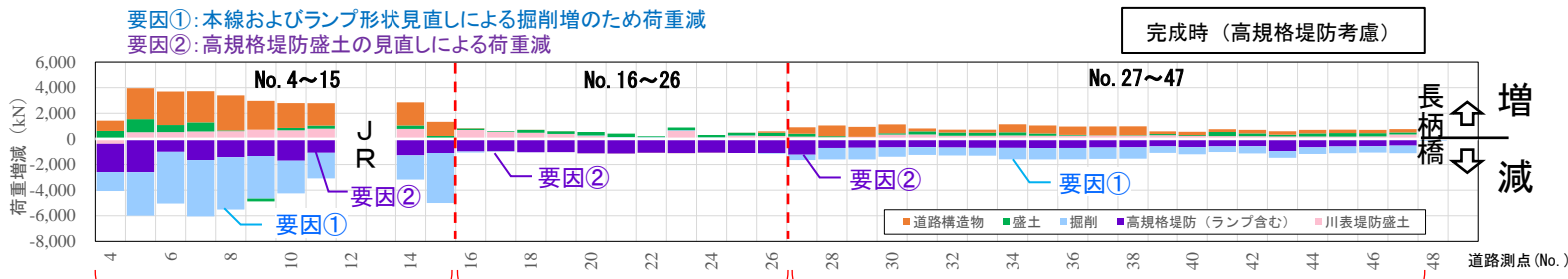
修正前



修正後



要因①: 本線およびランプ形状見直しによる掘削増のため荷重減
 要因②: 高規格堤防盛土の見直しによる荷重減



本線およびランプ形状見直しによる掘削増と高規格堤防盛土の見直しによる荷重減

高規格堤防盛土の見直しによる荷重減

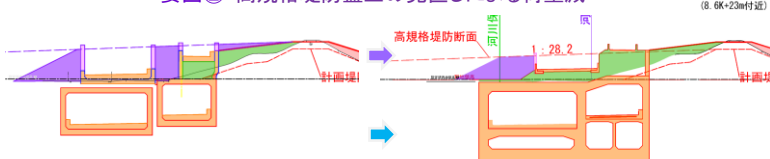
ランプ形状見直しによる掘削増と高規格堤防盛土の見直しによる荷重減

修正前後の増減 (修正後-修正前)

No. 4~15

要因②: 高規格堤防盛土の見直しによる荷重減

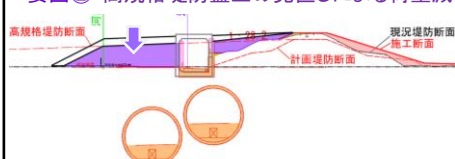
東-No. 7+00
(8.6K+23m付近)



要因①: 本線およびランプ形状見直しによる掘削増のため荷重減

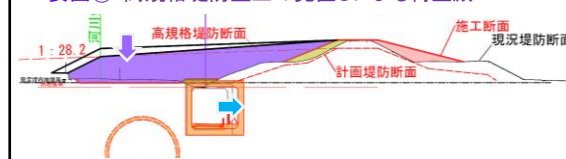
No. 16~26

要因②: 高規格堤防盛土の見直しによる荷重減



No. 27~47

要因②: 高規格堤防盛土の見直しによる荷重減



要因①: ランプ形状見直しによる掘削増のため荷重減

(1) 浸透解析における選定断面

浸透解析においては、地盤の条件を変更したケースA~Cの3つの検討ケースを設定している。3ケースについて、断面選定への影響を検討した結果、ケースAとケースBで各1断面、選定断面が変更となった。

- ・ケースA：遷移区間 (No. 24~28) が粘性土の場合
- ・ケースB：遷移区間 (No. 24~28) が砂質土の場合
- ・ケースC：地盤対策 (固結工法) を考慮した場合

【ケースA (遷移区間は粘性土層が厚く分布と仮定)】

※No. 23→28に変更

〈カテゴリ一区分の詳細は次項参照〉

測点No.		4	10	15	20	25	30	35	40	45	49	
Step2 カテゴリ	施工時		2-①		2-②		2-③		2-④		2-⑤	2-⑥
	完成時		2-①		2-②		2-③		2-④		2-⑤	2-⑥
	完成時 (高規格堤防考慮)		2-①		2-②		2-③		2-④		2-⑤	2-⑥
Step3 カテゴリ	施工時			No. 15 ★	★ No. 19		★ No. 26		★ No. 34		No. 47 ★	
	完成時			No. 15 ★ ★	No. 16		★ No. 23 → No. 28 ★		★ No. 34		No. 47 ★	
	完成時 (高規格堤防考慮)			No. 15 ★ ★	No. 16		★ No. 23 → No. 28 ★		★ No. 34		No. 47 ★	

【ケースB (遷移区間は砂質土層が厚く分布と仮定)】

※No. 27→29に変更

Step2 カテゴリ	施工時		2-①		2-②		2-③		2-④		2-⑤	2-⑥
	完成時		2-①		2-②		2-③		2-④		2-⑤	2-⑥
	完成時 (高規格堤防考慮)		2-①		2-②		2-③		2-④		2-⑤	2-⑥
Step3 カテゴリ	施工時			No. 15 ★	★ No. 19		★ No. 26		★ No. 34		No. 47 ★	
	完成時			No. 15 ★ ★	No. 16		No. 27 ★ → ★ No. 29		★ No. 34		No. 47 ★	
	完成時 (高規格堤防考慮)			No. 15 ★ ★	No. 16		No. 27 ★ → ★ No. 29		★ No. 34		No. 47 ★	

【ケースC (地盤対策 (固結工法))】

Step2 カテゴリ	施工時		2-①					2-②				2-③
	完成時		2-①-1			2-①-2			2-②		2-③	
	完成時 (高規格堤防考慮)		2-①-1			2-①-2			2-②		2-③	
Step3 カテゴリ	施工時		No. 15 ★									No. 47 ★
	完成時		No. 15 ★				★ No. 23					No. 47 ★
	完成時 (高規格堤防考慮)		No. 15 ★				★ No. 23					No. 47 ★

【解析ケース案】



※ Step2: 前述のStep1の区間を統合, Step3: 検討断面の選定

	No. 15		No. 16		No. 19		No. 23	No. 26		No. 28		No. 29	No. 34	No. 47
条件	自立式鋼管 矢板あり	自立式鋼管 矢板なし	自立式鋼管 矢板あり	自立式鋼管 矢板なし	自立式鋼管 矢板あり	自立式鋼管 矢板なし		砂質土	粘性土	砂質土	粘性土			
施工時	★	★	—	—	★	★	—	★	★	—	—	—	★	★
完成時	★	★	★	★	—	—	★	—	—	★	★	★	★	★
完成時 (高規格堤防考慮)	★	★	★	★	—	—	★	—	—	★	★	★	★	★

川表に自立式鋼管矢板を設置する区間
(No. 4~No. 22)

地層の遷移区間
(No. 24~No. 28)

【ケースA (遷移区間は粘性土層が厚く分布と仮定)】

2-③区間で、完成時、完成時(高規格堤防考慮)で、No. 23→No. 28に変更

測点No.		4	10	15	20	25	30	35	40	45	49							
構造形式	本線	開削ボックス			立坑	シールドトンネル												
	ランプ				擁壁・掘割			開削ボックス			本線シールド切掛け							
土留め	構造	SMW連続壁			鋼矢板(完成時撤去)			SMW連続壁			鋼製地中連続壁							
	延長	20m			58m	9.5m			15m	20m	25m	30m	30m	35m	45m			
地盤		粘性土層が厚く分布				遷移区間 (粘性土層が厚く分布)		砂質土層が厚く分布 (深部に薄い粘性土層が存在)		砂質土層が厚く分布								
川表の状況(自立式鋼管矢板)		自立式鋼管矢板あり					自立式鋼管矢板なし											
Step1カテゴリー		1-①	1-②	1-③	1-④	1-⑤	1-⑥	1-⑦	1-⑧	1-⑨	1-⑩	1-⑪	1-⑫	1-⑬	1-⑭	1-⑮	1-⑯	1-⑰
透水層の遮水性		完全遮断状態			構造物間での透水層が狭い				透水幅(土留め下)が狭い			透水幅(土留め下)が極めて狭いor完全遮断						
Step2 カテゴリー	施工時	2-①			2-②			2-③			2-④			2-⑤			2-⑥	
	完成時	2-①			2-②			2-③			2-④			2-⑤			2-⑥	
	完成時(高規格堤防考慮)	2-①			2-②			2-③			2-④			2-⑤			2-⑥	
Step3 カテゴリー	施工時	No. 15 ★			★ No. 19			★ No. 26			★ No. 34			No. 47 ★				
	完成時	No. 15 ★ ★ No. 16			No. 28 ★			★ No. 34			No. 47 ★							
	完成時(高規格堤防考慮)	No. 15 ★ ★ No. 16			No. 28 ★			★ No. 34			No. 47 ★							

【ケースB (遷移区間は砂質土層が厚く分布と仮定)】

2-③区間で、完成時、完成時(高規格堤防考慮)で、No. 27→No. 29に変更

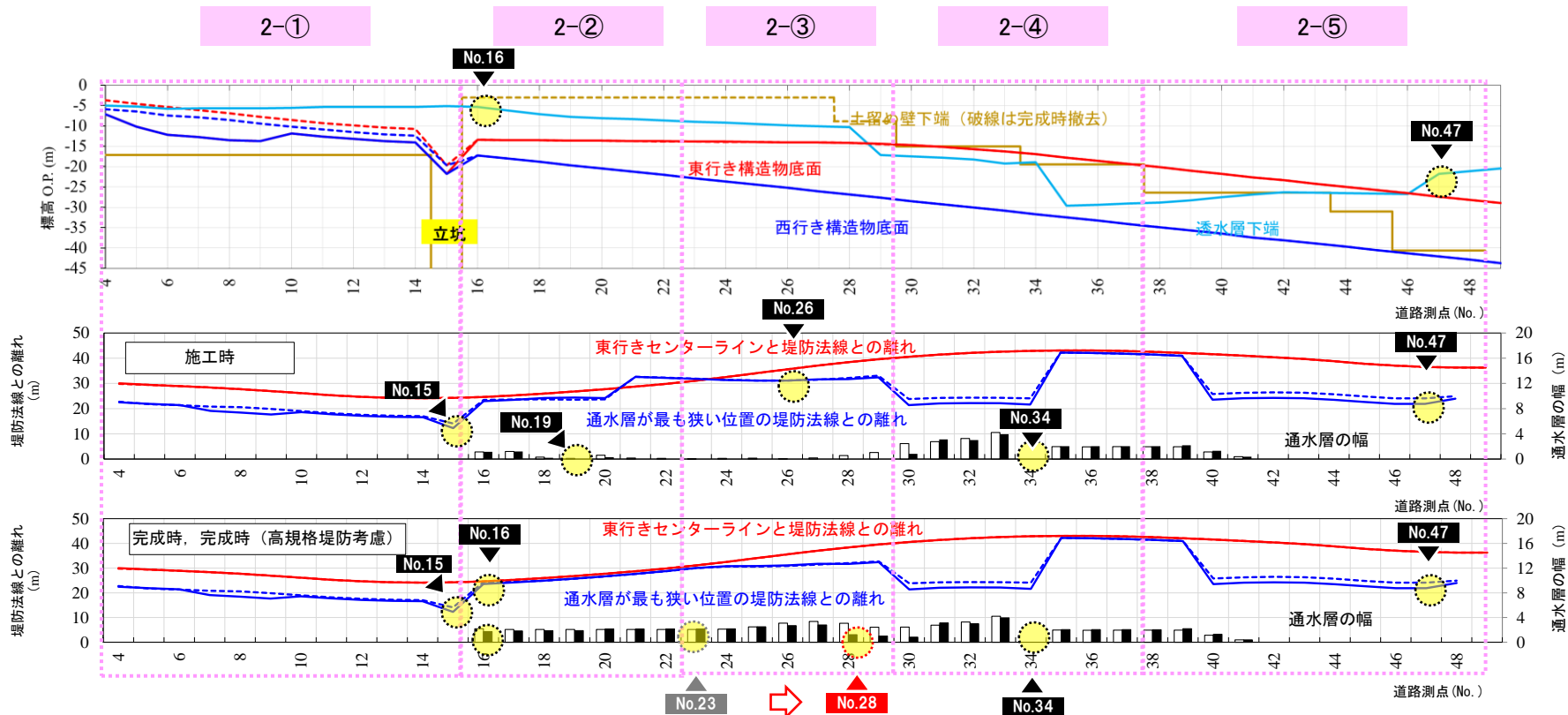
地盤		粘性土層が厚く分布				【遷移区間】 砂質土層が厚く分布 (深部に薄い粘性土層)		砂質土層が厚く分布 (深部に薄い粘性土層が存在)		砂質土層が厚く分布								
川表の状況(自立式鋼管矢板)		自立式鋼管矢板あり					自立式鋼管矢板なし											
Step1カテゴリー		1-①	1-②	1-③	1-④	1-⑤	1-⑥	1-⑦	1-⑧	1-⑨	1-⑩	1-⑪	1-⑫	1-⑬	1-⑭	1-⑮	1-⑯	1-⑰
透水層の遮水性		完全遮断状態			構造物間での透水層が狭い				透水幅(土留め下)が狭い			透水幅(土留め下)が極めて狭いor完全遮断						
Step2 カテゴリー	施工時	2-①			2-②			2-③			2-④			2-⑤			2-⑥	
	完成時	2-①			2-②			2-③			2-④			2-⑤			2-⑥	
	完成時(高規格堤防考慮)	2-①			2-②			2-③			2-④			2-⑤			2-⑥	
Step3 カテゴリー	施工時	No. 15 ★			★ No. 19			★ No. 26			★ No. 34			No. 47 ★				
	完成時	No. 15 ★ ★ No. 16			No. 27 ★ → ★ No. 29			★ No. 34			No. 47 ★							
	完成時(高規格堤防考慮)	No. 15 ★ ★ No. 16			No. 27 ★ → ★ No. 29			★ No. 34			No. 47 ★							

【ケースC (地盤対策(固結工法))】

地盤対策を考慮したケースでは、修正前後で条件がほとんど変わらないため、修正前後で同じ断面選定となる。

地盤改良による透水状況		完全遮断状態				透水幅(土留め下)が極めて狭いor完全遮断				
Step2 カテゴリー	施工時	2-①				2-②				
	完成時	2-①-1			2-①-2		2-②			2-③
	完成時(高規格堤防考慮)	2-①-1			2-①-2		2-②			2-③
Step3 カテゴリー	施工時	No.15 ★				No.47 ★				
	完成時	No.15 ★				★ No.23		No.47 ★		
	完成時(高規格堤防考慮)	No.15 ★				★ No.23		No.47 ★		

【ケースA（遷移区間は粘性土層が厚く分布と仮定）】



【施工時・完成時・完成時（高規格堤防考慮）】
 No. 15：透水層が遮断され、構造物が最も堤防に近接する立坑断面を選定

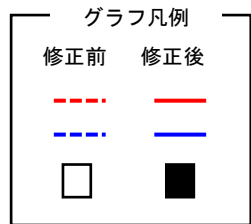
【施工時】
 No. 19：施工時に透水層の幅が狭く、その距離が堤防に近い断面を選定

【施工時】
 No. 26：施工時に透水層の幅が狭く、その距離が堤防に近い断面を選定

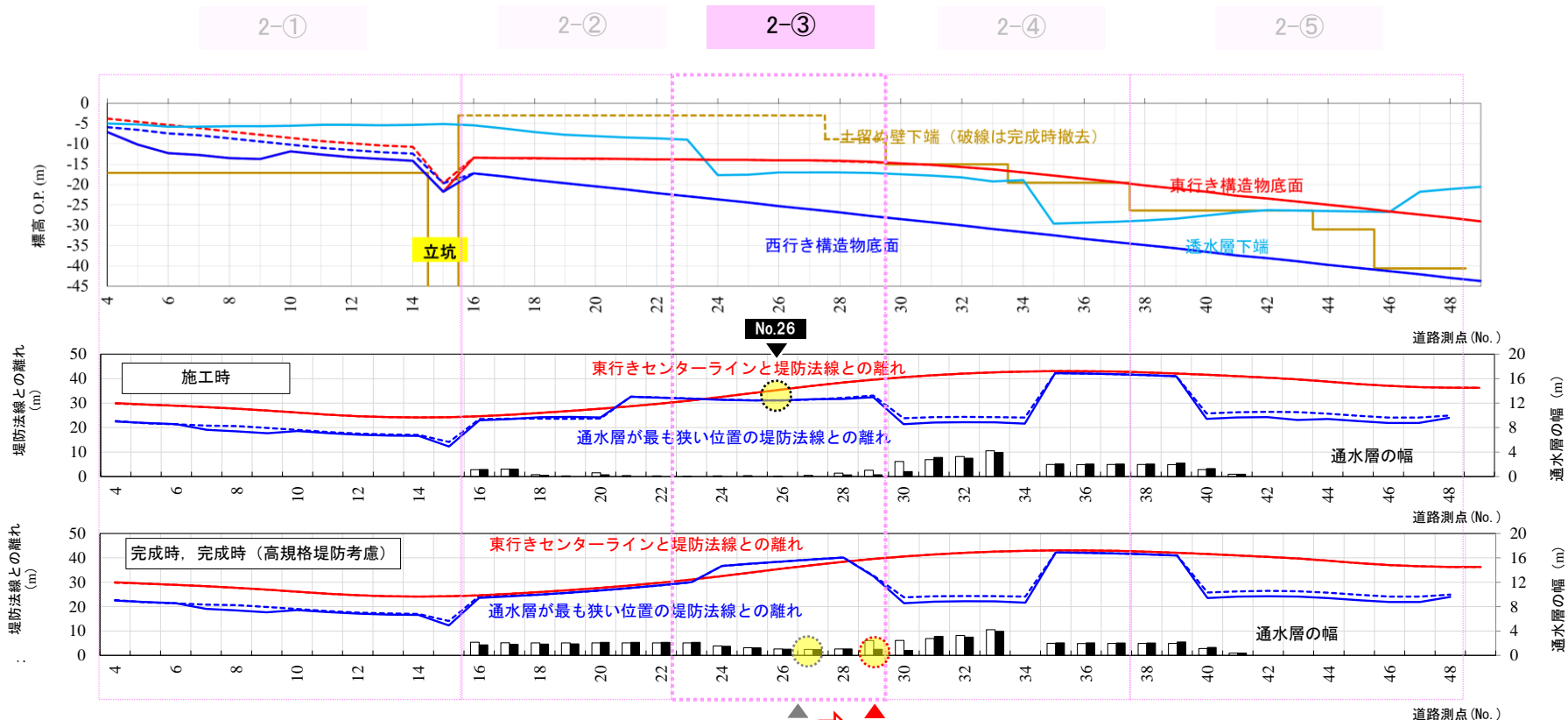
【完成時・完成時（高規格堤防考慮）】
 相対的に透水層の幅が狭いNo. 23を選定していたが、修正後、No. 28の方が透水層の幅が狭くなるため、No. 28に変更

【施工時・完成時・完成時（高規格堤防考慮）】
 No. 34：土留め壁が深く、局部的に透水層を遮断する断面を選定

【施工時・完成時・完成時（高規格堤防考慮）】
 No. 47：透水層厚の薄い断面を選定



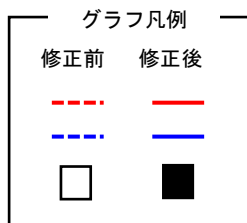
【ケースB（遷移区間は砂質土層が厚く分布と仮定）】



【2-①, 2-②は, ケースAと同じ】

No.27 No.29

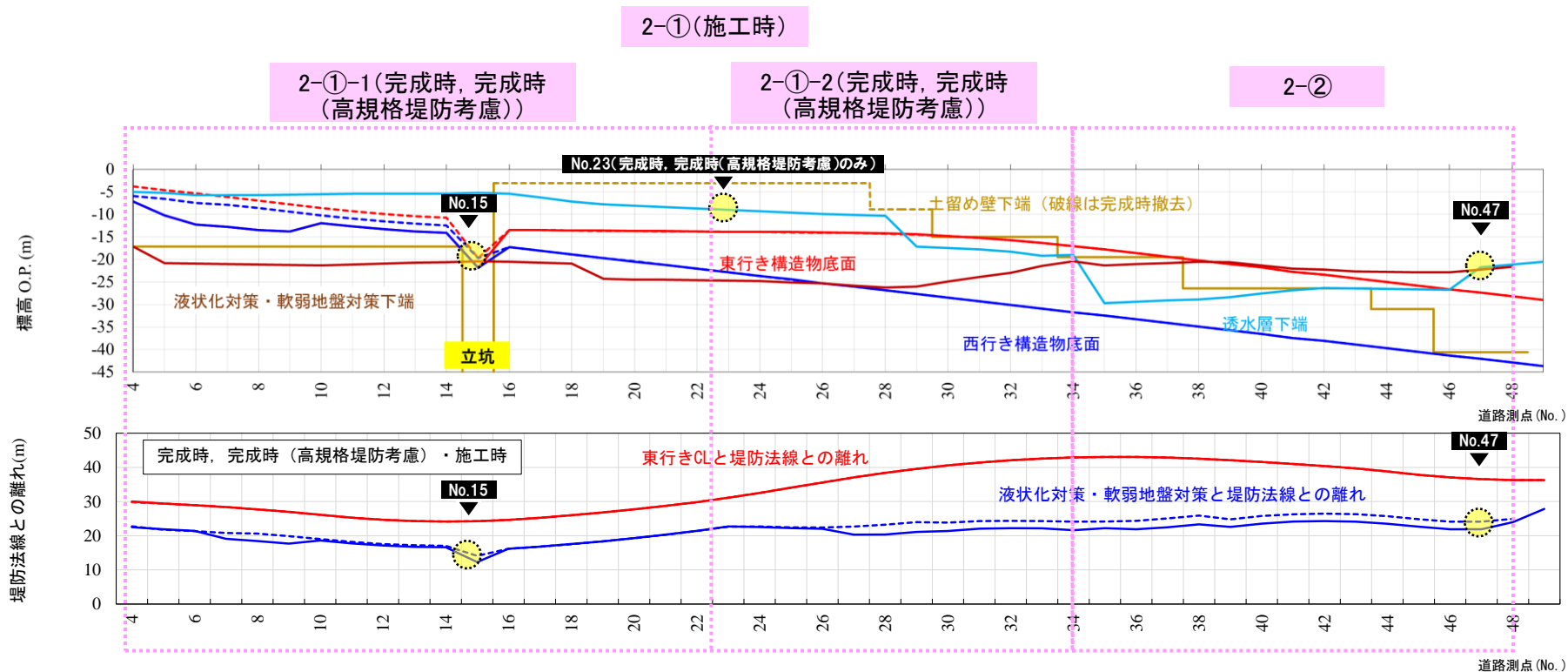
【2-④, 2-⑤は, ケースAと同じ】



【施工時】
 No. 26: 施工時に透水層の幅が狭く, その距離が堤防に近い断面を選定

【完成時・完成時 (高規格堤防考慮)】
 No. 28, No. 29のランプ部の底版が厚くなり, 透水層の幅はNo. 27とほぼ同等であるが, 堤防に近いランプ構造物下部の透水層はNo. 29の方が狭いことから, No. 29を選定.

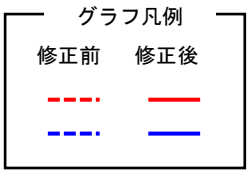
【ケースC（地盤対策（固結工法））】



【施工時・完成時・完成時
(高規格堤防考慮)】
No. 15: 構造物, 地盤改良範囲
が最も堤防に近接する立坑断
面を選定

【完成時・完成時 (高規格堤防考慮)】
No. 23: 地盤改良範囲と堤防との離れはほ
ぼ同様で, 地盤改良部以外の透水層厚が
相対的に薄い断面を選定

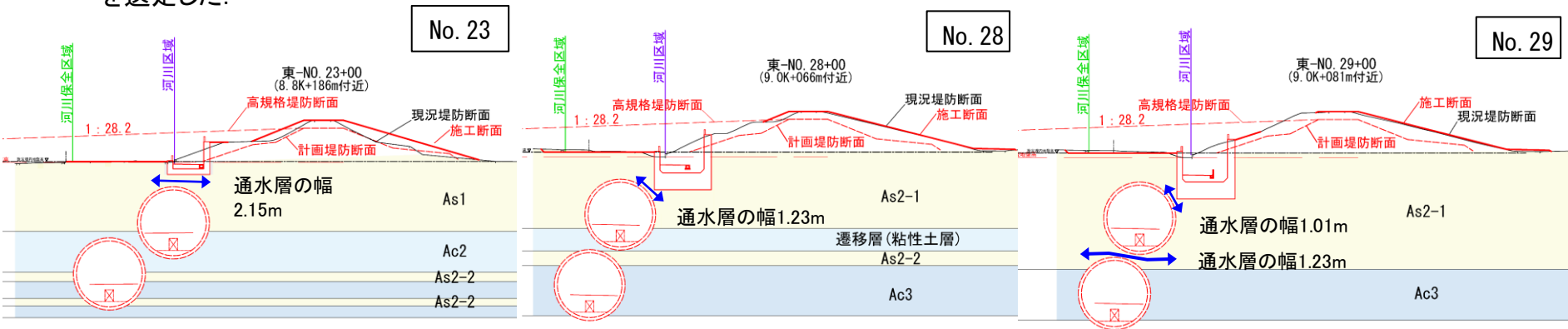
【施工時・完成時・完成時
(高規格堤防考慮)】
No. 47: 地盤改良が堤防に近く,
地盤改良部以外の透水層厚の薄
い断面を選定



区間2-③

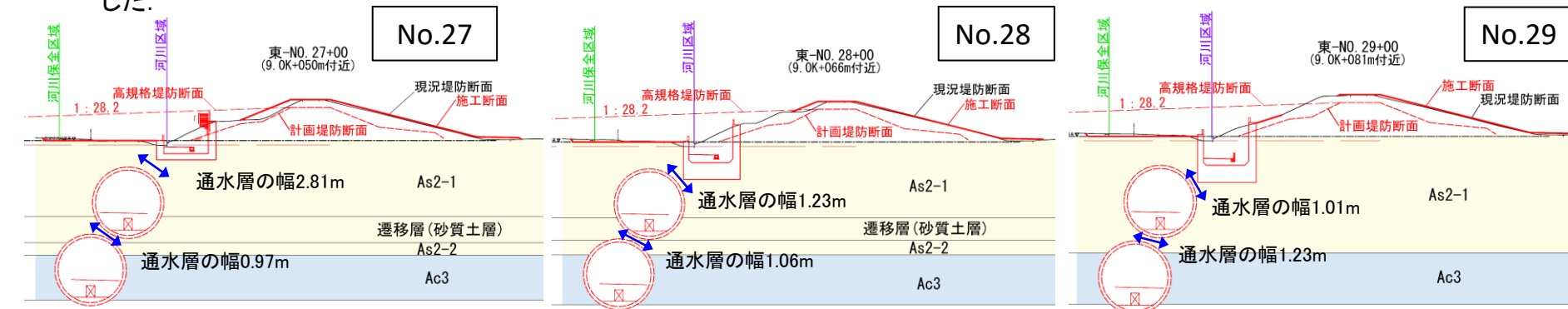
【ケースA（遷移区間は粘性土層が厚く分布と仮定）】

浮き上がり防止対策として、No.28, No.29はランプの底版が厚くなっており、No.23と比べてNo.28とNo.29のほうがランプとシールドトンネル間の通水層が狭くなる。No.28とNo.29を比較すると、ランプとシールドトンネル間の通水層はNo.29のほうがやや狭いものの、No.29では上下のシールドトンネル間にも通水層があることを考慮すると、相対的にNo.28のほうが通水層が狭いことからNo.28を選定した。



【ケースB（遷移区間は砂質土層が厚く分布と仮定）】

No.28, No.29のランプ部の底版が厚くなり、No.27に比べてランプとシールドトンネル間の通水層の幅が狭くなった。No.28とNo.29の通水層の幅はほぼ同等であるが、堤防に近いランプとシールドトンネル間の通水層はNo.29の方が狭いことから、No.29を選定した。



(2)耐震解析における選定断面

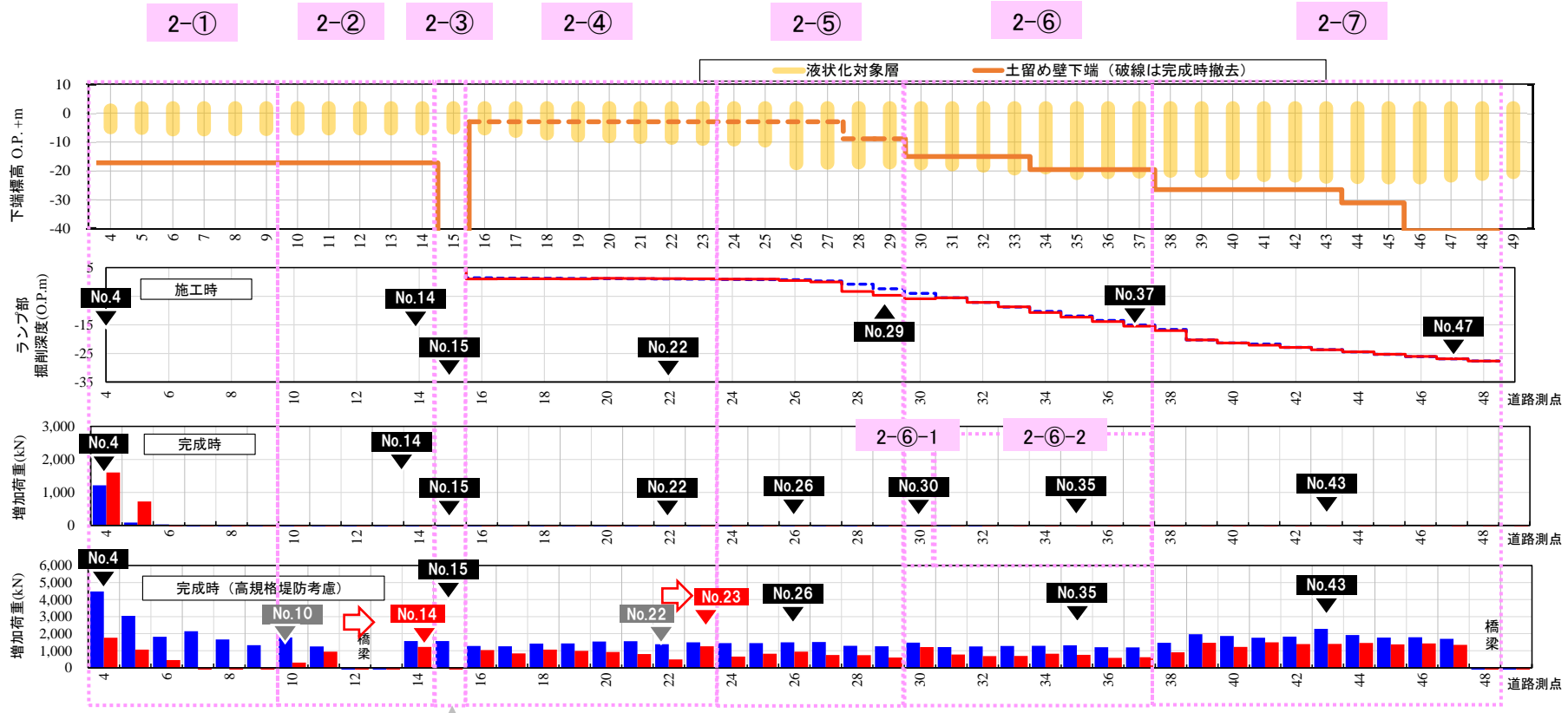
増加荷重の変化により, 2-②, 2-④区間の完成時(高規格堤防考慮)で検討断面を変更.

測点No.		4	10	15	20	25	30	35	40	45	49							
道路構造	本線	開削ボックス			立坑	シールドトンネル												
	ランプ	擁壁・掘削			開削ボックス			本線シールド切掛け										
土留め壁	構造	SMW連続壁			鋼矢板(施工後撤去)			SMW連続壁			鋼製地中連続壁							
	延長	20m		58m	9.5m		15m	20m	25m	30m	30m	35m	45m					
地盤		粘性土層が厚く分布				遷移区間 砂質土層が厚く分布 (深部に薄い粘性土層が存在)	砂質土層が厚く分布 (深部に薄い粘性土層が存在)		砂質土層が厚く分布									
川表の状況(水平部地盤長)		30m ≧ L > 10m		L ≦ 10m		30m ≧ L > 10m				L > 30m								
Step1カテゴリー		1-①	1-②	1-③	1-④	1-⑤	1-⑥	1-⑦	1-⑧	1-⑨	1-⑩	1-⑪	1-⑫	1-⑬	1-⑭	1-⑮	1-⑯	1-⑰
Step2 カテゴリー	施工時	2-①	2-②	2-③	2-④	2-⑤		2-⑥			2-⑦			2-⑧				
	完成時	2-①	2-②	2-③	2-④	2-⑤		2-⑥-1	2-⑥-2		2-⑦			2-⑧				
	完成時(高規格堤防考慮)	2-①	2-②	2-③	2-④	2-⑤		2-⑥			2-⑦			2-⑧				
Step3 カテゴリー	施工時	★ No. 4	No. 14 ★	★ No. 15	No. 22 ★	No. 29 ★			No. 37 ★			No. 47 ★						
	完成時	★ No. 4	No. 14 ★	★ No. 15	No. 22 ★	★ No. 26		★ No. 30	No. 35 ★		★ No. 43							
	完成時(高規格堤防考慮)	★ No. 4	★ → No. 14 ★	★ No. 15	No. 22 ★ → ★	★ No. 26		No. 35 ★		★ No. 43								

No. 10

No. 15

No. 23



【施工時・完成時
・完成時（高規格考慮）】
No. 4 : 荷重増加が最も大
きい断面を選定

【施工時】
No. 14 : 区間で掘削
深度が最も深い断面
を選定。
【完成時】
No. 14 : 道路構造物
の深度が深く、上部
に液状化層が厚く分
布する。
【完成時（高規格堤防
考慮）】
荷重増加が大きい断
面を選定。
完成時（高規格堤防
考慮）ではNo. 10か
らNo. 14に変更

【施工時・完成時】
No. 22 : 液状化層厚が厚
く、水平部地盤長が短
い断面を選定
【完成時（高規格堤防
考慮）】
No. 23の荷重増加が相
対的に大きいため、No. 22
からNo. 23に変更
【施工時・完成時・完成
時（高規格堤防考慮）】
No. 15 : 立坑

【施工時】
No. 29 : 施工時に区間
内でランプ部の開削深
度が最も深い断面を選
定
【完成時・完成時
（高規格堤防考慮）】
No. 26 : 液状化層が厚
く、水平部地盤長が短
い断面を選定

【施工時】
No. 37 : 施工時に区間
内でランプ部の開削深
度が最も深い断面を選
定
【完成時（2-⑥-1）】
No. 30 : 完成時の単独
区間として選定
【完成時（2-⑥-2）
・完成時（高規格堤防
考慮）】
No. 35 : 土留め壁が非
液状化層に根入れされ
ていないため、液状化
層厚が最も厚い断面を
選定

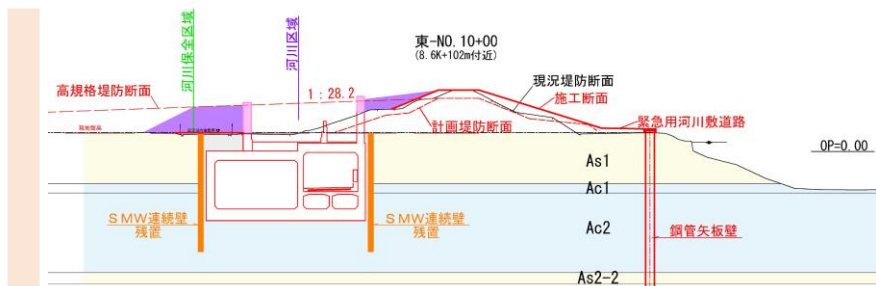
【施工時】
No. 47 : 施工時の掘削深度が橋
梁部No. 48を除いて最も深い断
面を選定
【完成時・
完成時（高規格堤防考慮）】
No. 43 : 液状化対象層が厚い断
面を選定

区間2-②

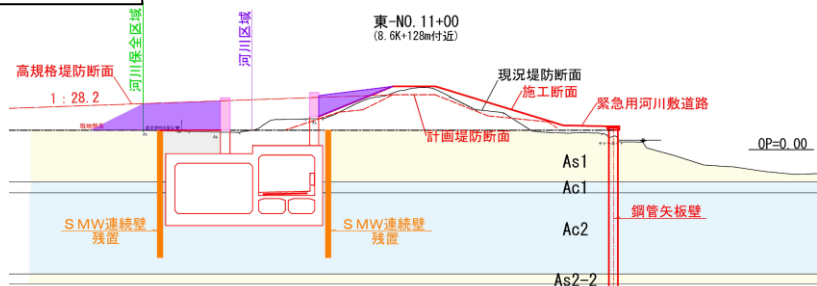
※No.10からNo.14に変更

No.10

※No.10付近のランプ構造物の幅が広くなり、No.14が相対的に増加荷重が大きくなった。

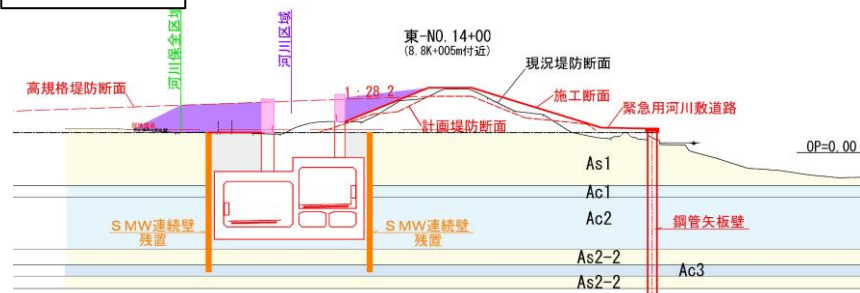


No.11



No.12, 13 JR交差部

No.14

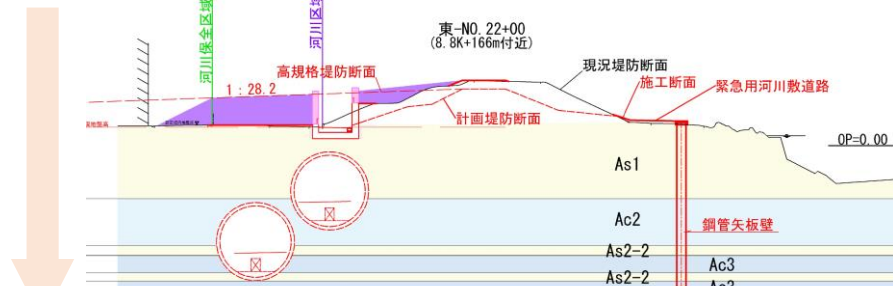


区間2-④

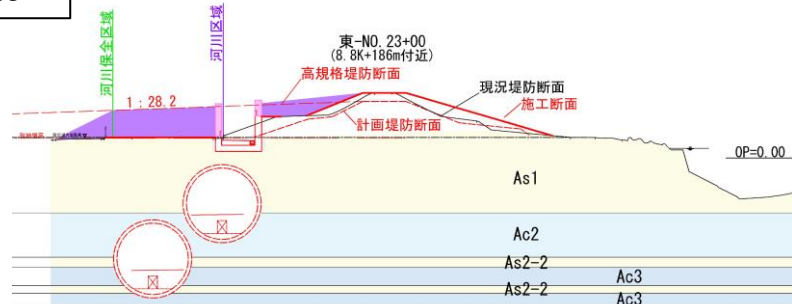
※No.22からNo.23に変更

No.22

※No.22は取付道路や堤内側に腹付盛土があり、施工前後の増加荷重としてはNo.23の方が大きい。



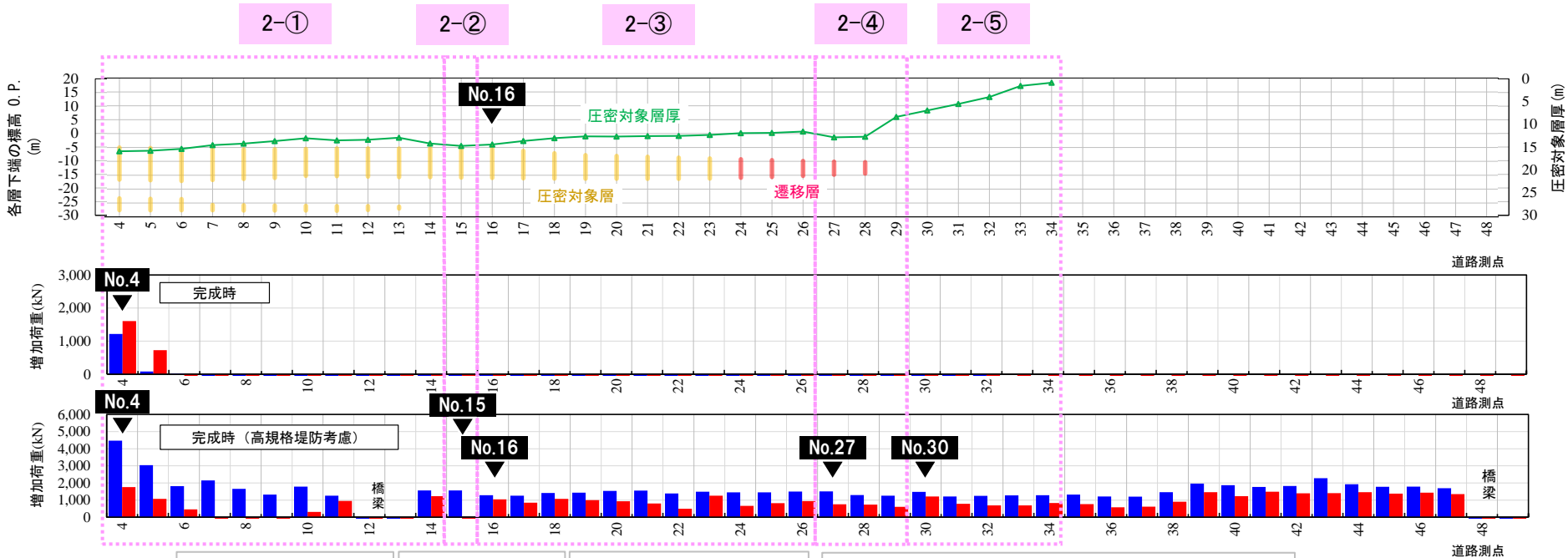
No.23



(3) 地盤変形(圧密)解析における選定断面

増加荷重の変更はあるものの、第2回委員会で示した選定手法で断面を選定した結果、選定断面に変更はない。

測点No.	4	10	15	20	25	30	35	40	45	49								
道路構造	本線 開削ボックス		立坑	シールドトンネル														
	ランプ		擁壁・掘削			開削ボックス		本線シールド切上げ										
土留め壁	構造 SMW連続壁		鋼矢板 (完成時撤去)			SMW連続壁			鋼製地中連続壁									
	長さ 20m		58	9.5m		15m	20m	25m	30m	30m	35m	45m						
地盤	粘性土層が厚く分布				遷移区間 粘性土層が厚く分布	砂質土層が厚く分布 (深部に薄い粘性土層が存在)		砂質土層が厚く分布										
川表の状況(水平部地盤長)	L < 1.5 × 軟弱地盤層厚					L ≥ 1.5 × 軟弱地盤層厚												
Step1カテゴリー	1-①		1-②	1-③	1-④	1-⑤	1-⑥	1-⑦	1-⑧	1-⑨	1-⑩	1-⑪	1-⑫	1-⑬	1-⑭	1-⑮	1-⑯	1-⑰
Step2 カテゴリー	完成時	2-①																
	完成時(高規格堤防考慮)	2-①		2-②	2-③		2-④		2-⑤									
	施工時																	
Step3 カテゴリー	完成時	★ No.4																
	完成時(高規格堤防考慮)	★ No.4		No.15	★ No.16		★ No.27		★ No.30									
	施工時																	



グラフ凡例
修正前 修正後
■ ■

【完成時・完成時(高規格堤防考慮)】
No. 4: 圧密層が厚く、増加荷重が最大となる断面を選定

【完成時(高規格堤防考慮)】
No. 15: 立坑
※No. 15: 局所的な変形がないか確認

【完成時(高規格堤防考慮)】
No. 16: 区間内で増加荷重が大きく、圧密対象層厚が最も大きい断面を選定

【完成時(高規格堤防考慮)】 No. 27: 区間内で増加荷重が大きく、圧密対象層厚が最も大きい断面を選定

【完成時(高規格堤防考慮)】 No. 30: 区間内で増加荷重が大きく、圧密対象層厚が最も大きい断面を選定

【3】 選定断面(案)

川表に自立式鋼管矢板を設置する区間 (No. 4~No. 22)	地層の遷移区間 (No. 24~No. 28)		
★：第4回委員会で報告（再解析）	★：第4回委員会で審議（新規）	★：第5回委員会で審議予定（新規）	★：見直しで変更した断面

浸透解析

	No. 15		No. 16		No. 19		No. 23	No. 26		No. 27		No. 28		No. 29	No. 34	No. 47
条件	自立式鋼管 矢板あり	自立式鋼管 矢板なし	自立式鋼管 矢板あり	自立式鋼管 矢板なし	自立式鋼管 矢板あり	自立式鋼管 矢板なし		砂質土	粘性土	砂質土	粘性土	砂質土	粘性土			
施工時	★	★	—	—	★	★	—	★	★	—	—	—	—	—	★	★
完成時	★	★	★	★	—	—	★	—	—	★	★	★	★	★	★	★
完成時(高規格 堤防考慮)	★	★	★	★	—	—	★	—	—	★	★	★	★	★	★	★

耐震解析

	No. 4		No. 10	No. 14	No. 15	No. 22	No. 23	No. 26		No. 29	No. 30	No. 35	No. 37	No. 43	No. 47
条件	自立式鋼管 矢板あり	自立式鋼管 矢板なし						砂質土	粘性土						
施工時	—	★	—	★	★	★		—	—	★	—	—	★	—	★
完成時	★	★	—	★	★	★		★	★	—	★	★	—	★	—
完成時(高規格 堤防考慮)	—	★	★	★	★	★	★	★	★	—	—	★	—	★	—

※完成時（高規格堤防考慮）No. 10はNo. 14に、No. 22はNo. 23に変更

地盤変形(圧密)解析

	No. 4		No. 15	No. 16	No. 27		No. 30
条件	自立式鋼管矢 板あり	自立式鋼管 矢板なし			砂質土	粘性土	
施工時	—	—	—	—	—	—	—
完成時	★	★	—	—	—	—	—
完成時(高規格堤 防考慮)	—	★	★	★	★	★	★